

◎平成27年度国内産農産物銘柄設定等の申請に係る意見聴き取り会
議事概要

平成27年12月15日
13:00～13:50
北海道農政事務所3階大会議室

- 1 開会（司会）：森田 業務管理課長
- 2 あいさつ：中山 生産経営産業部長
- 3 議事：森田 業務管理課長
出席者13機関、17名

議案

- ① 「水稻うるちもみ」並びに「水稻うるち玄米」
「ゆきさやか」の選択銘柄設定

申請理由： 有限会社農業生産法人市川農場「市川」氏
育種経過等：北海道農業研究センター「梶」氏
銘柄鑑定： 北海道米麦改良協会「樋口」氏

◎ 有限会社農業生産法人市川農場 代表取締役 市川 範之より説明

市川農場の市川と申します。申請理由を説明させていただきます。

ゆきさやかは適度な粘りと低タンパクで白いごはんになる極良食味米として北海道農業研究センターで2010年に育成された品種です。北海道の優良品種には採用されておりませんが、北農研の種子の配付している状況から推察すると、様式1の表にあるように平成27年度で約30haの普及が道内各地で進んでいます。そういった中、市川農場では3年間栽培してきたが、収量では3年間の統計で1反当たり10.3俵収穫しており、耐冷性に優れ安定した収量が見込める品種です。味の特徴としては、粘りの成分であるアミロースが約16%で粘り過ぎず食味バランスが非常に良いと実感している。アミロースのバランスが丁度いいので、ごはん単体でもおいしいし、万人向けの極良食味米ではないかと思う。これまでの北海道における低アミロース米の弱点は、気象・気候によって、栽培地区によってアミロースの変動があったのが現状であった。ゆきさやかは気象変動があってもアミロースに大きな変化は無く、味も安定している。ゆめぴりか以上に評価が高くなる可能性があるのではないかと。市川農場では平成28年度の作付けに向けて北農研と許諾契約を結んでおり、種子を購入して2ha作付と販売を予定している。この品種を登録することにより、北海道米の層の厚さが更に高くなり、今後TPPに対抗すべく直販してる意欲的な生産者にも独自の差別化を図ることができ、ブランド価値が高まる品種になると確信している。北海道の稲作農業の更なる発展のために、ゆきさやかの産地品種銘柄としての申請をします。

◎ 北海道農業研究センター 上席研究員 梶 亮太より説明